

農を身近に

収穫祭「夏」

8/7(土) 10:00~15:00

●会場／札幌市中央区南2条西6丁目13-1
南2西6ビル前・EDiT



いいね! 農style

いいね 農スタイル 検索 <http://n-style.haj.co.jp>

まちなかに、美味しい野菜と
農家さんがやつてくる！

野菜の もぎたて市 (1Fビル前)

●10:00~

※商品(野菜)がなくなり次第終了

- 石狩「はるきちオーガニックファーム」／ヤングコーン、オクラ、にんにく、他
- 三笠「のみやまファーム」／エアルームトマト、西瓜(マダーボール)、他
- 札幌「花ときのこ ほそがい」／原木しいたけ、他
- 札幌「ファーム伊達家」／ズッキーニ、他
- 富良野「松本農園」／富良野メロン
- 富良野「山本農園」／ミニトマト

※農産物は内容が変更になる場合がございますので、ご了承下さい。

トークショー (EDiT)

●11:00~ ●12:30~

- はるきちオーガニックファーム/小林さん×のみやまファーム/野見山さん(11:00~)
- 半農半画家 イマイカツミさん × 慶應SDM教授 林美香子さんトークセッション(12:30~)
※イマイカツミさんのミニギャラリーも同時開催します。

夏野菜BAR (EDiT)

●10:00~

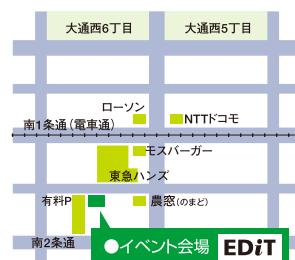
- BARCOM SAPPORO 夏野菜BAR
「はるきちオーガニックファーム」や「のみやまファーム」の野菜を使った
「夏野菜のサンドイッチ」「冷製スープ」「野菜スイーツ」等が楽しめます。
- サツラク牛乳、無料試飲コーナー

※夏野菜BAR、試飲コーナーとも、商品がなくなり次第終了

輪投げコーナー (EDiT)

●12:00~ ●13:30~

- 限定100名様! 美味しい野菜が当たる輪投げコーナー
- 12:00~12:30
- 13:30~ 賞品がなくなり次第終了



お問い合わせ



株式会社北海道アルバイト情報社

電話 011-223-3877 (担当:伊藤)



農都共生研究会 事務局(株式会社 新生内)

電話 011-221-1141 (担当:東海林)

●共催／慶應義塾大学大学院SDM研究科 ●後援／札幌市、農林中央金庫札幌支店
●協力／寿郎社、東急ハンズ札幌店、サツラク農業協同組合、BARCOM SAPPORO



●はるきちオーガニックファーム / 小林卓也さん

土を理解し、ミミズや微生物などの生物性を保ち、堆肥や肥料といった化学性を考える。そして一番大事なのは、野菜が一番育ちやすい季節「旬」を踏まえること。主役は野菜、農家はサポーター。
地球や人にとっての安全な環境、そして野菜がすくすくと育つ環境を考えた時、おのずと有機農業に辿り着いたという。
野菜を、人間の都合ではなく野菜の都合で作っている、若手有機農業家。



●半農半画家 イマイカツミさん

1ヶ月の半分を農作業手伝い、残り半分を画家として生きている富良野の半農半画家。
最近、もともと農家さんが住んでいた440坪の土地に建つ古い家を取得。「農家にならなくても畠仕事をして暮らしていくかも知れない」そんな夢を実現すべく、「小規模農ライフ」をスタート。その様子を、「いいね！農style」にて連載中！「半農半画家イマイカツミの耕作生活 やればできる（はず）日記」ぜひご一読を。



●ファーム伊達家

「土」本来の力を最大限に発揮させ、無肥料無農薬の自然栽培で野菜を育てている。
また、種の安全性にもこだわり、自分の畑で種を探り、毎年野菜の命をつないでいる。

●のみやまファーム / 野見山朋秀さん

福岡県出身。海上保安庁で巡視船の機関士と練習船の教官、外務省への出向という経験から一転、「いつかは農業」という夢をかなえ、北海道の三笠で新規就農した若手農家。「うまいものとは何ぞや」にこだわり、「食べていただける人の、五感と食に対する知的好奇心を刺激するようなこと」に挑戦中。今年からスタートしたエアルームトマト（固定種）をはじめ、なんと約40品目196品種もの野菜を作っている。

●慶應義塾大学大学院 SDM 教授 林美香子さん

農都共生研究会代表。「農村と都市の共生による地域再生」の研究で北海道大学大学院にて、博士（工学）・Ph.D を取得。慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科教授を務めながら、Air-G' 「MIKAKO マガジン」の出演や執筆活動を行っている。
著書は「農村へ出かけよう」、「農都共生のヒント～地域の資本の活かし方」など多数。



●花ときのこ ほそがい

「絶品」と言われるほどの原本椎茸を生み出す名人。もと八百屋というキャリアを活かし農の楽しさ、魅力、豊かさを、その絶妙な話術で伝え続けている。



●ふれあい体験農園みたむら

「農業小学校」や農園体験のツアーの受け入れ等、生産者と消費者の「心のつながり」を持ち、「つくることの大切さ」を多くの人に伝えている。

●松本農園

北海道の田舎に住みたいという思いで京都から移住してきたのに、いつの間にかメロン魅せられて富良野で新規就農。今では、ふらの農業協同組合メロン研究会の理事も務め、「自分の作ったメロンは一目でわかります」という言葉は、まさに「メロン職人」である。

●ふらのやまもと農園

自然の循環を意識して、畑もできるだけ自然に近づけること。有機肥料も入れすぎる事なく、作物そのものの生きる力を引き出す様、種をまく瞬間から意識をしている有機農家である。そうして大切に育てられた様は、言葉がなくてもミニトマトの味が物語ってくれる。

いいね！農 style

●「いいね！農 style」とは

(株) 北海道アルバイト情報社が、2009年夏にスタートさせた、農業関連プロジェクトのブランド名です。

北海道経済を支えてきた産業のひとつである『農業』。
それはこれからも大切なものであり、
北海道の元気のモトであり続けるもの。
『農』をつくるだけに限定せず、
運ぶ、加工する、販売する、料理する、食べる、考える ...
と視野を広げたとき、そこには様々な『農との接し方』、
たくさんの『農 style』があります。

北海道を愛し、北海道に暮らす者の一員として、
様々な『農 style』を応援しつつ、
弊社の中心事業である求人広告という枠を越えて、
何か貢献できることがないか考え、実行していく、
そんなプロジェクトです。

<http://n-style.haj.co.jp/>



農都共生研究会

●[農都共生研究会]とは

地域の資本を活かして、日本をもっと元気に、
北海道をもっと明るくすることを目的に活動する団体です。
全国各地の地域づくりの成功例を調査し、
見えてくる農村と都市の共に繁栄するあり方を研究しています。
さらに農村と都市の共生と交流の促進を提言し、
各地の地域振興の具体的な組織と連携し、各種事業を実践します。

【活動内容】

- (1) 多様な活動主体の取組活発化に向けた活動
- (2) 地域住民への普及・啓発に向けた活動
- (3) 農村と都市の共生と交流推進方策の検討
- (4) 農都共生に関わるビジネスプランの検討
- (5) その他研究会の目的を達成するために必要な活動

<http://www.noutokyousei.jp/>